



3D プリンター (Adventure4)



3D プリンター 製作物の例



レーザー加工機で製作した名入り木札と名札

Q

学生工房のおもしろさとは？

A

学生が作った部品設計のデータを3Dプリンターに入力して具現化できるため、成果を可視化できる点がおもしろいです。2024年の秋には、データ入力でレーザークラフトやTシャツ作りなどができるミシンを導入しました。今後もっと、もの作りのジャンルを幅広くしていきたいですね。

学生工房主査

理工学部 機械システム工学科
白鳥 英教授



A

学生工房はオープンキャンパスや世田谷祭で一般開放しています。世田谷祭ではプラレールの展示に子どもが夢中になっていて、製作した学生がその姿に感激していました。親御さんが楽しんでいる場面もよく見られ、地域の方に喜んでもらえることも学生にとってはいい機会だと思います。

施設監督

技術補助員
多田 達也先生



A

もともとの作りが好きで、1年生のときに白鳥先生からお声がけいただきサポーターに参加しました。自分で製作することも楽しいですが、サポーターとして教えているといい勉強にもなります。学生工房の機器はシンプルで手軽に使えるので、創作活動のきっかけとしても、絶好の場だと思いますね。

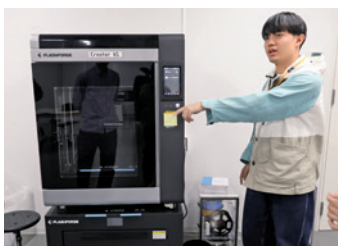
工房サポーター

理工学部 機械システム工学科3年
大久保 湧斗さん



3D プリンター

学生が持ち寄ったデータを入力し、フィラメント素材で造形する3Dプリンターは、最上位機種「Creator4s」をはじめ、4台を設置。大型機種は個人や研究室単位で所有することは難しい製品。学生工房では無料で使えるところも嬉しい点です。



機器右側に設置したフィラメント素材を溶かして設計、冷却することで造形していく。

レーザー加工機

CADデータなどの入力によって、素材にレーザーを照射して切断や加工、文字を書くレーザー加工機。レーザー加工は美しい仕上がりを簡単に作り出すことができ、加工の自由度が高い。FLUX社の大型高速機「HEXA」もCreator4sと並ぶ学生工房の目玉です。



レーザー加工機のソフトにデータを入力。木の板をレーザーで照射し、名入り木札を製作している様子。

学生の声



理工学部
電気電子通信工学科4年
(左)川原 永智さん
(右)堀 継真さん

「世田谷祭では、ショッピングモールに置かれていたペイブレッドの筐体を再現。様々な学科の仲間たちと協力しながら完成させることができました」(川原さん) 「広い机や色々な道具があり、グループで長時間の作業ができる環境があるのは学生工房の魅力です」(堀さん)



学生の声



理工学部
機械システム工学科3年
小池 彬さん

「学生工房は授業の合間によく訪れます。2024年10月から2フロアに拡張されてフリースペースもでき、製作しながら勉強できることも便利です。今日は戦車用の部品を作り、そのままこの場で試していました。横浜キャンパスから訪れる学生も多いようです」

